



鷺の宮卓話

見る人の目

研究所理事長 太田敬雄

我が家の離れを研究所の事務室として使っている。私の両親が住んでいた寝室にあたる。この部屋の前に一本の紫陽花がある。

紫陽花のすぐ南側には木蓮が植えられていて、その木蓮が大きく育ち、そのため紫陽花にはほとんど陽も当たらない。その姿も、こんもりと丸い元気な紫陽花ではなく、なんとなくヒョロッとしている。その紫陽花がつぼみを付け始めたのはもう大分前になる。

我が家には他にも紫陽花があるのだが、なぜかどれも中々花を付けてくれない年が多い。しかし、この木蓮の陰の紫陽花が今年花を持った。花は持ったが、何ともみすぼらしい。と言うのが私の正直な印象だった。

一週間ほど前、妻の玲子が「敬雄さん、紫陽花見た？」と弾んだ声を出した。うん、見たさ。みすぼらしい花だよね・・・と、答えたかったが、その間も与えずに玲子は言葉を続けた。

「可愛い可憐な花ね。」

無言の私・・・

「事務室のまん前にあるのに気がつかなかったの？」玲子はいう。

気はついていて、そのみすぼらしさをしみじみと感じていた。しかし、玲子はそれを可憐だという。

見直してみたが、やはりみすぼらしい！しかし、綺麗だという玲子の言葉が耳に残り、それから毎日その紫陽花を見ている。すると日に日にその紫陽花が綺麗に思えてくるのではないか。

実は、これは初めての経験ではない。私が見て何とも思わなかったものでも、玲子の一言で違って見え始めたことは何度もあった。自分には美を感じる目が無いのだろうかと思ったりもした。

半世紀ほど前に流行ったアメリカのテレビドラマ「トワイライト・ゾーン」を覚えておられる方もおられるだろう。「ミステリー・ゾーン」として

放送されたこともあるし、何度も再放送された単発のSFシリーズだ。その中の一つに「The Eye of the Beholder」という作品がある。

それは、美しくない人は手術を受けて美しくなる義務のある国の話。手術に失敗するとまた手術を受けなくてはならない。それでも失敗すると、その社会から排除され、美しくない人の住む所に追いやられる。そんな国の話だ。

主人公の女性は、顔全体を包帯で巻かれていてその容姿は見えない。最後の手術が終わり、医師によって包帯は丁寧に取り除かれる。医師と看護師の反応で、手術は失敗だったことが分かる。もうその国には醜い彼女の住む所は無い。

包帯が取られた主人公の顔が初めてカメラに捕らえられると、そこに写しだされたのは大変美しい女性だった。他方、同時に写された医師、看護師は何とも醜い容姿をしていた。

何を美しい、或いは可憐だと見るかは、まさに見る人の目にある。そして、その目は人との関わりと、その社会の価値観によって創られていく。

そんな事を思いつつ久しぶりに庭の紫陽花を見てみた。なんと、いつの間にかその紫陽花は見事な花に育ち、梅雨の雨空の下で、周りの緑にも負けず優雅に咲いていた。数日の内に大きく育っていたのだ。紫陽花はいきなり成長した姿で咲くのではなく、徐々に花びらを広げ、色を増していくのだった！

人が育つ姿は散々見てきている。アンバランスで、自信も無くすごしていた若者が見事に成人していく様子を何度も目の当たりにしてきた。しかし、まだまだ「みすぼらしい紫陽花」を見て明日の花を見る力は足りないようだ。

私にもまだ成長すべき余地がある。明日の花を信じて愛で、育てることの出来る人になりたい。



木陰の紫陽花

総会報告

2014年5月17日、午前10時半からの理事会に続き、午後2時からまなばるXDにて71名の出席(委任状59名)を得て今年度の総会が開催され、2013年度の事業報告、決算が承認され、2014年度の事業計画と予算案も審議・承認されました。

(同封別紙で2013年度事業報告書、2014年度事業計画書、2013年度決算および2014年度予算をお送りします。少々簡略化されていますが内容は変わりはありません。)

他に、今回の総会では二つの大事なことが決まりました。一つは役員の変更で、これはこれまでの役員が全員再任となりました。理事は伊藤成、野口紀子、関千景、狩野真由美、森泉寿義雄、太田琢雄、福田則行、太田敬雄の8名。監事は木村隆、幸田一彦の2名です。なお、理事長は太田敬雄、副理事長は伊藤成、野口紀子、関千景。なお今回審議はしていませんが、所長は太田敬雄、副所長は太田琢雄とマランの菅ヶ谷マコです。

もう一つの大事な決定は定款の改定をしたことです。その中で最も大事なことは「学生会員は理事長ならびに理事の指導の下で『学生交流チーム(SET)』(SET: Student Exchange Team)を結成し国内・外における「多文化交流」事業を企画・運営することができる。」としました。また希望する学生会員は総会に陪席することと、そこで意見を述べるができるようにしました。

この定款改定につきましては、群馬県に「定款変更認証申請」を7月に入って提出しましたので、承認されるのは10月から11月頃になります。定款をご覧になりたい方は研究所までお申し出ください。

なお、模索して参りました認定NPO法人格取得につきましては、諸般の状況を総合的に判断して、断念することと致しました。大勢の皆様が一方ならぬご協力を戴きながら、実現に至らなかったことは申し訳ありません。認定格は無くとも、本来このNPOが目指してきた活動を力強く推進して参ります。

二つの多文化交流から

多文化アメリカを経験して

高崎経済大学卒 井崎 亮介

読者のみなさんこんにちは。
井崎亮介と申します
多文化アメリカのプログラムに参加させて頂いて、私自身が見たこと感じたことをみなさんにお伝え出来ればと思います。あまり上手とは言えない文章ですが、最後まで読んで頂ければすごく嬉しいです。ではでは…



井崎亮介

一日目。飛行機が苦手な自分。
シアトル・ポートランドまでの道はそれはそれは険しいものでした。
というのは冗談で、気が付けば着陸のアナウンスが流れ、アメリカも地図で見るとは近いものだなという印象でした。入国審査を終え、いよいよという場面。みんなで手を繋いで「せーのシアトル！」ってやるはずだったのに、タイミングを見つけないまま結局わきと二人で空港の駐車場に向かって「シアトル！」ってやったのは良い思い出。(シアトル感は限りなくゼロだった)
ともあれ、アメリカにやって来たとはじめて実感したのは、やっぱり最初の朝ごはんを食べたレストランに入った時かな。時差ボケで眠気と格闘しながらたどり着いたとあるカフェ。メニューを見

るとまるで英語の教科書の1ページを開いているかのような気分。さっぱりわからないので太田先生と同じものを注文。カリカリベーコンとエッグが挟まれたパンはとっても美味しく、なによりボリュームが凄くて「これがアメリカンサイズか」と感動しました。おそらく軽い気持ちでパンケーキを注文したろうヒロ君もそのアメリカンサイズに驚いていたね。みんなでシェアしながらアメリカの味を楽しみ、初めてのお会計。そこで先生からチップについて教わりました。チップは日本にはない文化。サービスしてくれたウェ이터に対してさりげなく渡すのがマナー。難しいのはレジで会計する場合と座席で会計する場合でチップの渡し方が変わってくるという点とその計算。ほうほうと領きながらもこれが後に、わきとのランチタイムで大きな困難となる時は知る由もなかった。

二日目。

この日は自由行動。夕食のレストランの名前と集合時間だけ告げられて、各々自力でたどり着くようにという割と無茶苦茶な指示。岸さんはヒロ君の友人の方とシアトルの街へお出掛け。ヒロ君はマイクロソフト社へ見学に。太田先生は何してたのかな？

そして、自分とはいうとわきとシアトルの街フリーモントとバラードに向かいショッピングと観光を楽しむことに。ここでも面白エピソードはたくさんあるのだけれど、思い出に残ってい

るのは、ランチタイムとトロール像。太田先生がいない場で食事をするのはこれが初めて。チップのマナーは先生から習得済。なにも怖くないはずだった。しかし、教わったパターンと何かが違う。伝票に代金とiPhoneで計算したチップを挟んで…

井崎 「あれ、店員さんお金取りに来ないよ、持っていくのかな？（汗）」
わき 「テーブルの上に置いて出るんじゃない。」
井崎 「え、お金足りてるかどうか確認されないの（汗）（汗）」

他の人食べ終わるの待って観察してみよ」というようなプチハプニング。男らしさを何一つ發揮できてないけれど、なぜかこのカルチャーショックがすごく記憶に残っているんです。

食事を終え、突拍子なく見に行こうとなったトロール像。これがまた見つからないんです。諦めかけてた頃に突如現れた気味の悪い物体。なぜここに？なぜこの形相？そんな疑問しか湧いてこないトロール像。でも、見つけた時の達成感は格別。シアトルに行くならこのトロール像は必見です！

さて、次の日から待ちに待ったPSUの学生たちと短くとも深い交流の日々。思い出がたくさんありすぎるので、格別のものを3つ紹介させていただきます。

では、まず一つ目。

それは「アリスを探す旅 in ポートランド」。日本語で書かれたヒントをみんなで読みながら街のどこかにいるというアリスを探しました。みんなで変なドーナツのお店や不思議なフレーバーのアイスのお店に行ったり、桜の素敵な場所へ行ったり、本当にそこはワンダーランドでした。だからこそ、話す話題も尽きなくてベンジャミンやロキシー、ダニーとたくさんお話もでき、距離もいっきに縮まりました。ベンジャミンとビールで乾杯したころには、アリスを探すという設定も忘れちゃっていたような。素敵な場所と素敵な仲間にとっぴり溶け込めたこの一日がとっても心に残っています。

二つ目。3月25日。

「ハッピーバースデー」って声がお昼のハンバーガーショップに響きました。

この日は太田先生の誕生日。サプライズでお祝いしよう、前の日から作戦は練られ、みんなで選んだプレゼントとメッセージカードでドッキリ大作戦

を決行しました。結果は大成功。太田先生はポートランドのTシャツがとっても似合っていました。めでたしめでたし。

で終わると思いきや、先生から「もう一人、祝ってあげてほしい人がいる。ここにいる井崎は今日大学を卒業しました。おめでとう。」とお祝いのお言葉を頂く逆ドッキリを仕掛けられてしまいました。大学を卒業して社会人になるということは、自分で思っていたよりも大きな門出。

そんな新しいスタートをポートランドで迎えられたこと、素敵なお人たちがそれを祝ってくれたこと。この瞬間は僕にとってかけがえのないものになりました。

最後に3つ目。お別れのパーティー。楽しい時間ほど早く過ぎていく意地悪な時間の原理はいつでも働くものですね。

「え？もう終わっちゃうの」って気持ちでいっぱいだったけれど、スライドショーに映し出された写真を見ているととっても濃厚な時間を過ごしていたんだなと。そして、写真をみていると表情もどんどん良くなっているのが明らかでした。浅倉先生をはじめPSUのみんなが時間をかけて準備してくれたから、これだけお互い打ち解けられて楽しい時間を過ごせたのだと感じました。ほんとにほんとに感謝です。

ほんとに最後に。

「多文化交流」は素敵な出会いを与えてくれる場であるとともに、「知ることの楽しさ」を教えてください。僕がいつも感じるのは「自分ひとりの考えなんてすごく小さく狭いものだ」ということ。宗教や文化、生活習慣の全く異なる人との触れ合いは、考えの幅が広がるとしても良い刺激となるはずですよ。

この素敵なイベントがずっと続いていくこと、もっともっとたくさんの人知ってもらえることを心より願っています。



3月25日は高崎経済大学の卒業式！Portlandで祝った井崎君の卒業

多文化交流 in ぐんま with 台湾親子 台日親子交流活動～「日本小小外交官」活動

IIMS所長 太田敬雄

親子の参加する多文化交流は長年私が実施したいと望んでいたプログラムの一つでした。実際、インドネシアのマランで実施することを考えて現地の副所長を引き受けて頂いている菅ヶ谷マコさんとは何度も話し合ってきました。

子どもの内に文化の違いを経験し、その違いを乗り越えてつながっていく事の大事さを思うと同時に、親が同じ体験を共有していないと、子どもだけの他文化体験は否定されていく事を強く感じておりました。なぜなら、子どもの他文化体験で得たものは、日本の生活様式の中では無価値であったり、マナー違反だったりする

ことが多いからです。その貴重な体験が認められるためには親も同じ体験をしなくてはならない。それが私の強い思いでした。

今回、ビビさんから台湾親子との交流の話を持ちかけられた時には、私は大喜びで飛びつきました。けれども、初めての企画には多くの問題が付きまといます。特に、時期がこちらのスタッフとなる学生にとっては授業期間の真っ最中であったこと、これまでの「日本語で」という枠を超えなくてはならなかったこと、さらには研究所とビビさんが主催する Mummy-baby & kids の共催であることなどが、多くの困難を生じさせました。その体験を通して、吾々主催者も、スタッフも、また台湾からの参加親子も、ホームステイを引き受けて下さった皆さんもそれぞれに多くを学び成長することが出来たと感謝しています。

まずはまなばるブログから～ (抜粋)

台湾親子との多文化交流 IN ぐんま 2014



6月5日から9日(月)までの5日間、学習の森(群馬県安中市)を拠点に『台湾親子との多文化交流 IN ぐんま 2014』を開催しました!

【主催】NPO 法人国際比較文化研究所(まなばるの運営母体)・MAMI-BABY&KIDS(台湾)

このイベントは台湾人親子の方々が来日し、日本を観光する!...のみではなく、日本人の親子たちと知り合い、仲良くなり、寝食を共にし、それぞれの文化に触れ合おうという国際交流イベントでした。

5日間の日程のうち、7日(土)8日(日)の2日間は「日本の親子との交流及び日本の家庭へのホームステイ」というスケジュールでした。台湾・日本合わせて16組の親子が参加し、この交流を楽しんでくれました。

====

異なるバックグラウンドや言語で育つ子どもたちの「交流」そしてその「経験」が、このイベントの最たる意義です。おそらく、ご参加下さった皆様も、同じ思いで参加してくれていたと思います。

今回対面した子どもたちはこの先もどんどんと成長し、小学生になり、中学生、高校生となり、いずれ社会に出たり、結婚して子どもができたり...

そんな長い長いライフスパンにおいて、もしかするとこのたった二日間の交流は、あっという間に忘れ去られてしまうものかもしれません!

それでもその一度きりの人生の中、
学校生活でも
社会生活でも
ビジネスの世界でも
はたまた
いつか親になった時にも...

何よりも大切にすべきもの、
何よりも自分自身を支えてくれるものは、

人との良好な繋がりであり
心と心の繋がりにのではないかと私たちは考えています。

今回の交流が参加してくれた子どもたちにどのような影響を与えるものか。

もちろんその結果はわかりません。それぞれにとって、同じようでは違うものかもしれません。

でも、こんな幼いうちに、

「人と触れ合うって
楽しいね! 温かい
ね!」



「言葉が通じなくて
仲良くなれるね!」

「海の向こうにも、
友だちがいるぞ!」

少しでもそんな気持ちになれたならば、
その思いはやがて彼らのチカラとなり、
彼らの人生を支えていくんじゃないかと。

その感覚は漠然とでいいし、無意識でいいのだと思うのです。

その瞬間を、我々大人たちが温かく見守り、肯定してあげる。そんな単純なことで良いと思うのです。



『台湾親子との多文化交流 IN ぐんま 2014』が、そんな風に、子どもたちの「成長」と「平和」に繋がるイベントになれていたら...嬉しいです!

ホストファミリー 松本奈緒

6月7、8日の二日間

『台湾親子との多文化交流 in ぐんま』に家族で参加しました。恥ずかしがり屋な4歳の女の子の Ohmy ちゃんとママの joy さんのホストファミリーを務め、二人にホームステイしてもらいました。



とっても素敵な親子で、二日間とにかく楽しかった！日本語 only の娘こまきと中国語 only の Ohmy ちゃんが言葉を必要とせず仲良く遊ぶ姿は本当に本当に可愛かったし、こまきが「謝謝」と言ったのがちゃんと伝わって Ohmy ちゃんが笑顔になったり、Ohmy ちゃんのはにかみながら小声で「ありがとう」と言ってくれたりすることにとっても癒されました。

私も台湾人のママ友が出来ていい刺激をたくさんもらいました。国は違えど子育てする上での悩みや、子供にいろんな経験をさせたいという思いは一緒に、共感できることがたくさんありました。Ohmy ちゃんの保育園はお昼だけでなく朝御飯も出してくれるらしいです。そんな違いを知ることも楽しい！

いつもパパを独り占めしているひとりっ子のこまきは時折 Ohmy ちゃんにヤキモチをやき、グズって私たちにかまってもらいたいアピールをしたりして、普段はあまり見られない一面が見えたりもしました。

交流会で食べた大根もちとハイビスカスの砂糖漬け、美味しかったなあ♡

この上ない貴重な経験が出来た二日間でした。また機会があればホストファミリーを引き受けたいと思います。ありがとうございました。

ホストファミリー 小林美佐子

6月8日 昨日今日と台湾親子との多文化交流 in ぐんまに参加(*´ω`*)初めてホストファミリーに(´w´)我が家にはモモさんとオスカーくんがお泊まり♪ジャムおじさんの助っ人とえみちゃん家族のおかげでどうにか盛り上げられたかしら？足湯と自然史博物館♪これからお買い物に…♪

6月9日 台湾親子との多文化交流最終日♪我が家に泊まった記念にお花の木と一緒にモモさん、オスカーと植えました！花の咲く季節にモモさんとオスカーくんを思い出せるように(o´▽´o)本当に楽しかった♪食文化交流での大根もち美味しかった！息子にも良い経験をさせる事ができました！(´-`)v-

本当にこの2日間は私達家族にとって貴重な経験になりました！この交流に参加しなければ新たな出会いや人との繋がりを味わう事が無かったと思います！子供にも良い刺激にもなったと思います！

ホストファミリー 真下憲一

今回ホストファミリーという貴重な経験をさせていただいた、まなぼるさんに感謝いたします(謝謝)

引き受けた以上はしっかりと役目を果たさなければと思います自分達に何が出来るのか何をすれば喜ばれるのか考えてみました。

結論。日本又は群馬は狭いようで広く何をして何処に連れていってあげればよいか決まりませんでした！！何ということでしょう・・・紹介する側の私が日本(群馬)の多種多様な文化に気付いてしまいました・・・

そこで林さんとジャクソン君を招いた夜にホームパーティーを開き集まった友人達と日本の事や台湾の事について話し合いました。私自身あまり知らなかった台湾の歴史、観光地、文化、料理に興味を沸き行ってみたくなりました(勿論宿泊場所は林さん家)

因みに日本でもよく見かける同じ様な造りの【台湾料理屋】で出てくる料理は台湾の料理では無いと言っていました(笑)皆で『やっぱりね！』と、頷いてました。食文化交流で御馳走になった料理を食べれば納得ですね(美味しかったあ)

私の中でも一番の思いではショッピングに行ったときにジャクソン君と2人つきりになった時の事です。

言葉の通じない外国の子供(4才)と2人つきりになるってことは今まで培ってきた育児スキルが何一つ通じないってことを味わいました。もうアタフタしっぱなしでジュスチャーで全て乗りきりました。間違いなく私の育児経験の中で最大級の難易度であり良い経験でありました。

これら2日間の出来事は私達家族と林さん親子にとって素晴らしい経験になったと思います。お別れ会で林さんに『ありがとう』と言われて役目を果たせた『良かったあ』と嬉しかったです。

今回、家族の中で多分私自身が一番楽しんでいたかもしれません。

* * *

台湾の皆さんは Facebook に沢山の書き込みをして下さっています。読めなくても興奮冷めやらない気持ちが伝わってきます。

その中から：

台湾ファミリー 林妍宣(訳:Vivi)

今回は台湾親子との多文化交流 IN 群馬に参加できて本当によかったです。日本初かもしれない幼児向けの HOMESTAY ですが、子供はもちろん、私もとても楽しかったです。

違う国の人でも言葉を通じない小さな子供でも、心を広げていれば、楽しめます。

日本 HOMESTAY 先のみんさんのやさしさもあたたかさもすごく伝わっています。

大きくなったら今回のイベントはどれぐらい覚えられるのか分からないですが、

もしかしたらまったく覚えていないことになるかも知れないですが、今回のイベントを通して、人と人との間、

(p.6へ)

(p.5より) お互いの言葉を分からなくてもシンプルな幸せ、あたたかさを感じることができるという気持ちの種はしっかしうちの子のところに撒かれたと思います。

ここでNPO 法人国際比較文化研究所、**HOMESTAY** 先の真下一家、**MAMIBABYKIDS** のVIVIさん、一緒にこのイベントに参加した台湾人親子達、みんなさんに知り合えて本当によかったです。ありがとうございました。

「子供達に負けない☆全力スタッフ達！」

まなぼるスタッフ 松原 雄斗

今回のスタッフ達は、本当に準備が大変でした。流しそうめんの為に大量の竹を取り、てるてる坊主用の布に紐を縫い付けたり、朝早く起きて食事の準備をして、夜遅くまで片づけをして次の日に備える。ここには収まらないほど、それぞれのスタッフが一生懸命働いてくれました。一緒にワイワイ楽しみながら作業ができるスタッフ達がいなければ、最後までやり遂げることはできませんでした。ありがとうございます。正直なところ「ここまで準備しなくてもいいのでは？」と思うことが何度もありました。そんな疲れを癒してくれたのは、参加者達でした。言葉が通じなくても笑顔で話してくれる台湾の子供達、同じ時間を過ごすにつれ笑顔の時間が増えました。まるで同級生のようにぶつかってくる日本の

子供達は常に全力でした。「ありがとうございました」と涙を見せながらお礼を言ってくれる保護者の方々。参加者の皆さんを見て、色々な疲れが飛んでいきました。この気持ちはスタッフ全員、同じ気持ちだと思います。

長い人生で見れば、今回の交流は本当に短い時間だったかもしれません。私がこの先願うのは、写真を見ながら「楽しかったね」と家族で話すことだったり、「台湾に行って再会したよ!」「日本にまた遊びに来たよ!」と言う話が聞けたりすること、そして…子供達が大人になった時に今回のことを一瞬でも「楽しかったな」と思い出してくれたら、とても嬉しいです。

それぞれが全力で頑張ってくれたスタッフ達、笑顔を見せてくれた参加者の皆様、本当にありがとうございました！謝謝！



再びまなぼるのブログを元に…

【6月7日(土)】○開会セレモニー
台湾からの参加者の皆さんによる台湾紹介！
○昼食(流しそうめん!!)
雨で実施が危惧されたイベントですが
そーめんジェットコースター、大盛り上がりでした♪



続いて
1 多言語交流プログラム
数馬先生の日本語ダンス
Vivi先生の台湾の遊び
「棒打老虎雞吃蟲」
まなぼる英会話の
人気者、キャサリンも登場

(2) てるてる坊主作り

梅雨の時期、日本の風物詩「てるてる坊主」。連日雨に見舞われる中、みんなで作ったてるてる坊主とみんなで歌った歌。どんびしゃりな日本文化体験は、学生スタッフメンバーの閃光のひらめきから生まれました♪

○各ホストファミリー宅へ

ホームステイは多文化交流の醍醐味であり代名詞！ホストファミリーを引き受けて下さった皆様には、感謝してもしきれません!!! 本当にお世話になりました。

【6月8日(日)】ホームステイから戻った後は、
○子どもたちのみで全力ゲーム(宝探し!!)
○食文化交流パーティー 参加した大人たち(それぞれの国の料理を教わりながら作りました。

《台湾食》

・魯肉飯(ルーローファン)・・・煮込み豚肉かけご飯
・焼きビーフン ・大根もち

《日本食》

・手巻き寿司 ・切り干し大根の煮物

○お別れ会：朝の出発が早いので、8日に！
涙と笑いの止まらないお別れTIMEでした。





高崎教室スタートにつき

英会話講師募集中です！

【キッズ英会話の講師募集／まなばる】

◆◆高崎（山名八幡宮）教室スタートにつき、キッズの心をギュッとつかんでくれる英会話の先生の募集を開始しました！◆◆

<経験者優遇／子育て世代の活躍もサポート>

≫ 募集要項 ≫ http://www.manapal.jp/boshu2014/boshu_yamana2014.html

≫ まなばる HP ≫ <http://manapal.gunmablog.net/>

=====

皆さんこんにちは！まなばるから大事なお知らせです。

まなばるは、子どもたちへの学びと育ちの機会の提供を目指し、2009年にNPO法人国際比較文化研究所が設立した民間教育施設。皆様のサポートに支えられ、群馬県安中市内2か所に教室を持ち、現在約200名の生徒たちが通ってくれています。

そんな中、今秋（2014年10月予定）まなばるの高崎教室オープンが決定しました。いよいよ高崎へ進出です。

教室の場所は御鎮座830年・子育て宮として祀られ、現在も様々な形で子育てのサポートを実践する『山名八幡宮』<http://yamana8.net/>。この歴史ある人々の憩いの場をまなばるの高崎拠点とさせて頂き、相互協力していくことにより、各地域の子どもたちに、さらに楽しく充実した経験と成長の機会を提供していきたいと考えています。（従来の国際理解・国際交流イベントの中にも、日本の歴史や伝統を自然体で根付かせていけるようになると思います。そういった膨らみも楽しみです。）

この新規教室スタートに併せ、キッズたちを目いっぱい楽しませてくれて、愛情をもって指導してくれる英会話&英語の先生の募集を開始します。

≫ 募集要項 ≫ http://www.manapal.jp/boshu2014/boshu_yamana2014.html

≫ まなばる HP ≫ <http://manapal.gunmablog.net/>

子育て中の方へのサポート体制も整えています。上記リンク先の募集要項をご確認の上、ご本人はもちろんのこと、ご家族・ご友人で興味を持ってくれそうな方がいれば、ぜひぜひお声掛け下さい。よろしくお願ひします！

不明点・疑問点がありましたら、お気軽にご連絡下さい。

（担当：太田琢雄まで）

facebook：<https://www.facebook.com/takuo.ota.7>

メール：mail@manapal.jp

TEL：027-386-8499

研究所からのご連絡とお願い

- 1、研究所ホームページについて**：長らく休眠状態だったホームページが動き始めました。皆さん一度覗いてみて下さい。「活動報告」でニューズレターのバックナンバーをカラーで見ることが出来ます。活動報告ではまた、研究所の活動が取り上げられた新聞記事もご覧頂くことが出来ます。「Facebook」からは研究所のfacebookにもつながることが出来ます。
- 2、Facebook**：こちらでも多文化交流などの日常の活動をリアルタイムに近い形で見て頂くことが出来ます。多文化交流の企画をしてくれている学生スタッフの活動など、生き生きと伝わってきます。ぜひご覧下さい。「国際比較文化研究所」もしくは「多文化交流」を探してみてください。
- 3、まなばるホームページ**：<http://manapal.gunmablog.net/> で、まなばるの活動を目の当たりにしていただけます。中々楽しいですよ。是非ご活用ください。
- 4、振込方法について**：会費の振込、ご寄附の振込には赤い振込用紙を皆様にお届けしていますが、その振込み方によって手数料が変わります。通常の振込（5万円まで）の場合は①窓口扱いで払込みされますと手数料が130円かかります。会費、2,000円をお振込いただいた場合、2,000円から130円が引かれて、研究所には1,870円が届くわけです。②郵便局のATMにこの振込用紙を入れてATM扱いで払込まれますと、手数料は80円で済み、研究所には1,920円が届く仕組みになっています。さらに③振替口座・総合講座をお持ちの方がATM扱いの電信振替で送金して下さいますと手数料は0円となり、研究所には2,000円が丸ごと届くこととなります。勿論、ご都合の良い方法でお振込いただければ良いのですが、「どちらでも構わない」場合には手数料の安い方をご選択ください。昨年度の決算に有りますように、1年間で振込手数料は17,200円かかっています。会費で換算しますと、8名分強の会費が「手数料」で引かれていることとなります。
- 5、会費とご寄附のお願い**：研究所の活動は、基本的に皆様からの会費とご寄附によって支えられています。まなばるが出来てから、決算額は大変大きくなりましたが、「儲け」が出ているわけでは有りません。まなばるもNPOの理念を貫いて活動しています。これまで同様に会費・ご寄附でお支え下さいますようお願いいたします。会員以外の方も、数年に一度でも結構ですから、ご寄附をお願いできれば幸いです。

会費・寄付（2014年4月11日～7月10日）敬称略

<入会：一般会員>金井優希。

<入会：学生会員> 岸綾夏、斎藤恒平、斉木雄作、脇優美、柴田なつみ、中島愛、小野里佳奈、フェアダー・スチャトミ、梶山拓弥、菅谷佳名子、後藤翠。

<会費>前田申栄、長谷川勝義、高橋美一、キャンディ、小坂景子、土屋操、佐藤貴雄、内田穂積、菅ヶ谷由美子、熊倉浩靖、岡田一恵、長谷川貴尚、長谷川路子、齊藤正典、齊藤和子、巢山史枝、黒田絢、正田智美、松山幸生、佐俣英司、櫻井なおみ、木村隆・眞理子、安斉修宏、丸山武子、真下東雄、狩野郁子、太田玲子、山崎恵美子、梶原悦子、田中京三、伊藤忍、徳増弘子、恩幣宏美、堀越美津子、宇賀神正美・真実、森啓、本島靖子、齊藤宏、木暮道子、前田武男、吉田省史郎、丸山輝彦、福崎結子、高尾善樹、佐俣由香、加藤靖弘、近藤佳代、永田強一、福田英作、岩井均、山本浩、関千景（13,14）、金井美由紀、幸田一彦、狩野真由美、野口紀子、福田則行、大江士、関口澄、中易圭子、加納武、角田敏太郎。

<寄附> ○**一般寄附** 前田申栄、菅ヶ谷純弘、岩本謙、正田智美、村井田和夫、真下東雄、太田玲子、伊藤忍、堀越美津子、清水智子、森啓、吉田省史郎、福崎結子、福田英作、池田章二、関千景、金井美由紀、伊藤成、福田則行、幸田一彦、太田琢雄、狩野真由美、太田敬雄、野口紀子、大江士。 ○**招聘** 菅ヶ谷由美子、村井田和夫、宇賀神正美・真実。 ○**まなばる** 長谷川路子、木村隆・眞理子、村井田和夫、木暮道子、福崎結子、福田則行、前畑希明。 ○**多文化交流** 村井田和夫、木暮道子、福崎結子。

《編集後記》 こうして最後に皆様の会費、ご寄附を記録していますと、改めて本当に大勢の皆様を支えられて活動することが許されていることに感謝の思いで一杯になります。有難う御座います。これからも、平和を作り出す者としての役割を果たすべく活動を続けて参ります。皆様でお支え下さい。

（太田）

Newsletter 発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3

電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振替口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所

Facebook：多文化交流 NPO 法人国際比較文化研究所